

# 水族園

橋本 千秋

絵 / 石阪 春生

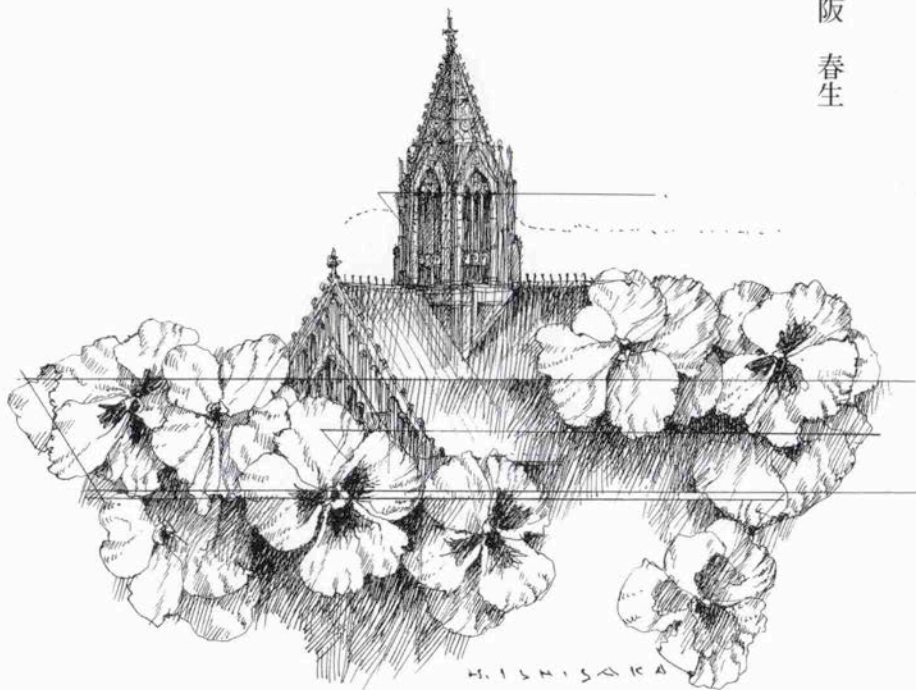
えらも

鱗もなくなつて

もう海へ戻れない

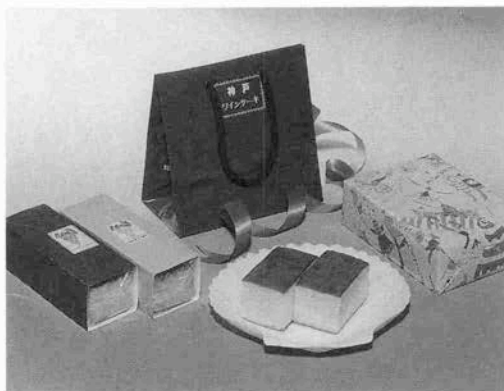
魚たちが

魚を見ている



\*神戸生まれの\*  
\*おしゃれなおみやげ\*

## ワインケーキ



小さな手さげ袋に大きなまごころ  
2本入り (シロ&アカ) ¥950

■お求めは…

さんちか店(スイーツタウン) / 農業公園(ワイン城) /  
須磨海浜水族園/チャオ新神戸店/ワールドインテリア  
(ポートピアホテル) / 神高丸(船内売店)



株式  
会社

北 欧 の 銘 菓  
**2-ヒメ・コンフェクト**

本 社

〒651-21神戸市西区北別府2-1-2  
TEL 078-974-9756 FAX 078-974-9758

プライダルギフト  
事業部・大阪

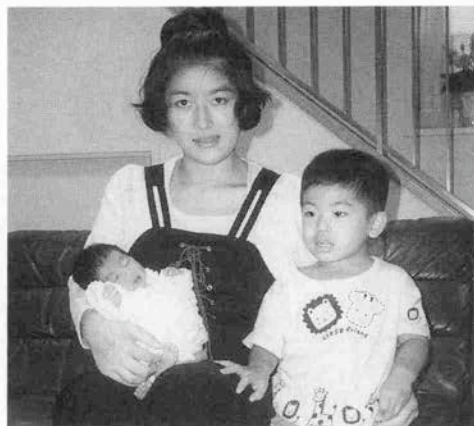
〒558大阪市住吉区刘田町7丁目12-19  
TEL 06-697-9435 FAX 06-697-4188



SAMOTO CLINIC

佐本  
産科

## ママといっしょに



赤ちゃん：寺川美代ちゃん(平成7年9月25日生まれ)

お兄ちゃん：翔太くん ママ：真弓さん

「家族が1人増えて、これからもっと楽しい家庭にしたいです」

## ★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15

TEL:078-575-1024 (病室TEL:078-577-7034)

市バス上沢4停南スグ

●駐車場完備●

□ 私の意見

震災から一年、

この頃思うこと

東村 衛

〈神戸市交通事業管理者〉



「だんだんとはなれていくなあ…」ポツリと感慨深げに愚息がもらした。今年の四月、奈良に転居して引越しの荷物の整理中でのことである。息子は神戸で生まれ、神戸で育った。正真正銘の神戸っ子で、震災後結婚し、宝塚、奈良と移り住んだ。彼は彼なりに神戸が好きなのだと思えて感じた。

“一人一人の市民が何時までも住み続けたいと思うまち、このまちを訪ねる人が何度でも来たいと思うまち”神戸をそんなまちにしよう、そして、そのまちをアーバンリゾート都市と呼ぼう。そんな思いが近年の神戸のまちづくりの基本であり、平成五年のアーバンリゾートフェアがその具体的なスタートだった。着々とそのまちづくりが進んでいる最中、昨年一月十七日、瞬時にして神戸のまちの大部分が破壊された。

神戸のまちの復興については、ハード・ソフト両面にわたって色んなことが様々に実施され、また行われようとしており、公共、民間、個人、団体を問わない。日々まちの様子も変わっていく。そして何にもまして人間のバイタリティーの素晴らしさを感じる。

私の仕事は、市バス・地下鉄を走らせて市民の生活を確保することであるが、今、震災から一年余を経過して地下鉄は附帯事業を含めて全線で営業を行っているが、市バスの方は、道路事情等により一部については以前どおり走れない状況にあり、引き続き復旧に努めている。まだまだ市民の皆様にご不便をおかけしているがご容赦をいただき、ご利用をお願いしたいと思う。また、地下鉄海岸線（新長田から三宮まで約八キロメートル）の建設を進めているが、この海岸線は神戸のまちの復興の核的な事業として行っているものの、工事にあたっては種々ご迷惑をおかけしている。お許しをいただきご支援とご協力をお願い申し上げます。

たとえ走れなくても何とかまちに白と緑のバスが出てその姿が見えることで、市民の皆さんにいくばくかの元気を湧かしていただけなのか、一分一秒でも早く何とか少しでも市民の足としての責任を果たせないかというのが被災直後の復興に向けてのスタートであった。

今、改めて、アーバンリゾート都市を標榜して、頑張っていかなばと思ひ、そして神戸のまちの復興にみんなが心を合わせてやり抜くしかないと思っている。

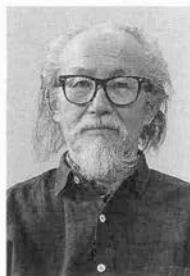
ANNIVERSARY 35 神戸創生

月刊神戸っ子35周年記念文化賞／第6回受賞者発表

# 神戸っ子賞

月刊神戸っ子の創刊30周年を記念して「神戸っ子賞」を創設いたしました。分野を問わず、永年の活動の蓄積によって、神戸文化の振興とイメージアップに功労のある方に賞を贈らせていただきます。

選考委員



中西 勝

〈画家・二紀会常任理事〉

小笠原 暁  
米花 稔  
石阪 春生  
小泉 康夫



# ブルー・メール賞

月刊神戸っ子35周年記念文化賞／第25回受賞者発表

創刊10周年を機に神戸の文化を推進するために文化賞「ブルー・メール（青い海賞）」を創設いたしました。各部門別に選考会を開き左記の5名の方に賞をお贈りいたします。

◆文学部門

選考委員



増田 まさみ

〈現代俳句・詩〉

伊勢田 史郎  
安水 稔和  
鈴木 漠

◆音楽部門



釜洞 祐子

〈倉楽家  
ソプラノ〉

選考委員

小石 忠男

柴田 仁

出谷 啓

中西 弘則

◆美術部門



奥田 善己

〈洋画家〉

選考委員

乾 由明

伊藤 誠

増田 洋

◆舞台芸術部門



花柳 小三郎

〈日本舞踊〉

選考委員

佐野 漣箕

山本 忠勝

岡田 美代

◆ファッション部門



佐藤 悦枝

〈アートのフラワーデザイナー！  
創花人〉

選考委員

藤本 ハルミ

鈴木 章子

小泉 美喜子

■ブルーメール賞協賛企業

財団法人井植記念会  
UCC上島珈琲株式会社  
株式会社エルアイシー  
株式会社大月真珠

オールスタイル株式会社  
カサベラ光和株式会社  
関西西宮信用金庫  
株式会社木下真珠

財団法人上月教育財団  
神戸地下街株式会社  
田崎真珠株式会社

バンドー化学株式会社  
株式会社山勝真珠  
株式会社ワールド



小泉康夫  
(月刊神戸っ子社長)



石阪春生さん  
(画家)



小笠原暁さん  
(声屋大学学長)



米花 稔さん  
(福山大学教授)



## ●第六回 神戸っ子賞 美術の国際交流を体現 中西 勝に

日本の洋画界の雄である「二紀会」は、東の宮本三郎、西の田村孝之介の布陣で創始された。田村さんの地元である神戸は、当然「二紀会」の拠点となった。

今年、第四十回記念の「神戸二紀展」がハーバーランドの神戸阪急ミ

ュージアムで開催された。場内は活力溢れる作品群で埋め尽くされ、神戸画壇の最尖鋭の芸術の華を咲かせた。

「神戸二紀」(二紀会兵庫県支部)は、田村孝之介から児玉幸雄、中西勝から、高崎研一郎さんへと支部長が引き継がれ現在に至っている。画壇の直木賞といわれる「安井賞」を中西勝、西村功、鴨居玲、堀江優さんなどが受賞して、神戸画壇の水準の高さを全国に示したことも鮮烈な印象となっている。

また、早くから美術の国際交流にも意欲を示し、神戸二紀選抜メンバーによる海外進出が試みられた。国際交流展は、ハワイ、シンガポール、ソウルなどで実現。韓国作家の作品を何度か日本に招待したりと、芸術交流の実を挙げている。

これらの成果は、中西勝さんをはじめ高崎研一郎支部長以下グループの現執行部の結束を示すものとして、高く評価されている。

〈小泉康夫〉

### ■選考経過

震災復興の活躍者として昨年に引き続き候補に挙がったのが、コープこうべの高村勲名誉理事長顧問と新野幸次郎元神戸大学学長、亀高素吉神戸製鋼会長ら。

芸術分野では、画家の東山魁夷、中西勝、西村功、元永定正。中西勝は詩人の伊勢田史郎らとアート・エイド・神戸で活躍。元町画廊の佐藤廉は神戸画壇史を「画商の眼」に著した。鋭い風刺漫画の高橋孟、書道の望月美佐。音楽では辻久子。俳句では句誌「琴座」主宰の永田耕衣。建築では清家清の名が挙がった。

今回の受賞者は芸術分野からとの声が高まり、地元への貢献度とダイナミズムも考慮されることになった。その結果、アート・エイド・神戸や神戸二紀の活動が評価され、中西勝に決定した。

〈文中敬称略〉

### ■歴代受賞者

- 1 淀川長治/映画評論家
- 2 朝比奈隆/指揮者
- 3 陳 舜臣/作家
- 4 宮崎辰雄/前神戸市長
- 5 中内 功/ダイエー会長  
兼社長



鈴木 漢さん  
(詩人)

安水 稔和さん  
(詩人)

伊勢田 史郎さん  
(詩人)



●第二十五回  
ブルームール賞  
《文学部門》  
変幻自在の詩精神  
増田まさみに

選考の対象となった増田まさみさんの詩集『フロッタージュの沼』は、大震災の前年に刊行されているが、早くから意欲的に文芸活動を展開してきた増田さんの、これが第一詩集というのは、いささか意外でもあった。現代詩に、俳句に、エッセーに、評論にと、同人誌「幻想時計」などを拠点にしてのクロスオーバーの活動は、めざましいものがあつたからだ。もっとも、現代詩に先行して、俳句の分野でのワークに、より比重

がおかれていたことは、自他ともに認めるところでもあろうか。しかしたとえば、俳句の有季定型あるいは花鳥風月といった予定調和の枠などには、増田さんの変幻自在の詩精神が、到底収まるはずもないのだ。

そして昨今はもう一つ、出版や装訂の仕事に関わるという別の顔が加わった。先般、第一回中原中也賞を受賞して話題を集めた豊原清明さんの詩集『夜の人工の木』は、ほかならぬ増田さんのアトリエ「霧工房」が、その刊行を手掛けたものであった。また、震災で須磨のご自宅が倒壊した俳人・永田耕衣翁の最近刊句集『自入』の装訂も、増田さんの手になる。

この度の受賞を契機に、それらタイポグラフィ（活字表現）を基底とする現代詩、フリー・ヴァースの領域で、その本領と精神の自在さを、より大きくはばたかせるよう願ってやまない。

《鈴木 漢》

■選考経過

今回は現代詩が対象。審査員に、体調を崩している君本昌久に代わって鈴木漢が加わった。

候補には「木精の街で」の江口節、「草の小道」の葛城啓子、「ミシンを踏む女たち」の神田さよ、「サルドの香油」の紫野京子、「時の本棚」の永井ますみ、「菜の花を食べる」の西川邑子、「フロッタージュの沼」の増田まさみ、「磨きガラスの卵」の龍神雅子らが挙がった。

男性では豊原清明、たかぎたかよしらの名がでたが、別の賞を受賞しているのので除き、新人賞という視点から、感性にめざましさがみられるとして増田まさみが評価された。

《文中敬称略》

■歴代受賞者

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1. 詩 / 中村 隆    | 13. 詩 / 時里 二郎  |
| 2. 小説 / 鄭 承博   | 14. 評論 / 松尾美恵子 |
| 3. 俳句 / 小泉八重子  | 15. 詩 / 武田 信明  |
| 4. 小説 / 福本 早夫  | 16. 小説 / 山崎 史子 |
| 5. 詩 / 三宅 武好   | 17. 詩 / たかと 匡子 |
| 6. 小説 / 秋吉 好   | 18. 小説 / 栄枝子   |
| 7. 詩 / 江頭 越子   | 19. 詩 / 田中 紀子  |
| 8. 小説 / 桜井 利枝  | 20. 小説 / 夏巳 ちゆ |
| 9. 詩 / 梅村 光明   | 21. 詩 / 渡辺 信雄  |
| 10. 小説 / 吉保 知佐 | 22. 小説 / 吉田 秀雄 |
| 11. 詩 / 季村 敏夫  | 23. 詩 / 村中 雅子  |
| 12. 小説 / 福岡 勝利 | 24. 評論 / 大塚 雅子 |



増田 洋さん  
〈兵庫県近代美術館〉

伊藤 誠さん  
〈美術評論家〉

乾 由明さん  
〈美術評論家〉



## ●第二十五回 ブルーメール賞 《美術部門》 常に新鮮なベテラン 奥田善己に

奥田さんに本賞を贈るについては、いささか遅きに失した感がないでもない。しかし賞の趣旨である「新鮮な」「意欲的な」といったことに関しては、その作品に強く漂うものがあり、さらにまるで不死鳥とも思える粘り強さ、息の永さが震災後の復興ムードにマッチする点から、この度の授賞になった。子どもの頃、絵が上手だとほめそやされたことは、かなりの人々が経験済みだろう。しかし、己の人生の究極の道としてま

っすぐに突き進んだ人は、そう多くない。奥田さんは、それを幼年期から生きる目的と覚悟した数少ない一人である。生一本な人だ。ただし勤めを持った上での独学であつたため、いささか慎重に過ぎた感はある。技量もようやく身についたと考えて、いざ登竜門の美術団体を窮つた際、自分の視点が保守的であり、すでに時代から取り残されつつある位置に居ることに気付いた。冷静な判断力を備えていたわけだ。直ちに勉強をし直すことを決め、しばらくしてすでに動き始めつつあつた同世代の間とともにグループを結成する。そして「個」と併行して「集団」としての作品を世に問い始めた。今から見てもユニークであつたと実感できる「グループ位」の発足である。奥田さん、三十代初めの頃。振り返れば、すごい仕事ぶりである。どちらかといえば、「蔭の人」的な存在に徹しようとした人ようだが、今こそ奥田さんの存在はクローズ・アップされるべきだろう。まだまだの活躍を期待したい。

〈伊藤 誠〉

### 選考経過

震災後、初の選挙となつたが、そういつた「震災芸術」を形にしたグループとして市内の幾つかの神社へ彫刻を奉納した「神戸芸術村」が話題にのぼつた。震災を作画化して迫力を見せたのが油絵の保ヶ淵静彦。震災後積極的に動いて佳作を発表したのが津田仁子。このほか油絵の分野では、ようやく自分の世界を確立し始めた天野潮彦、新鋭で堤建二、山田裕之の名が挙がつた。日本画ではいささか日本画らしくない(?)仕事ぶりである仁木勉、山野隆之が注目。また現代陶芸の岡井美穂が勉強中のイタリアから一時帰国して発表した人形風こしらえの作品群に期待が寄せられた。

〈文中敬称略〉

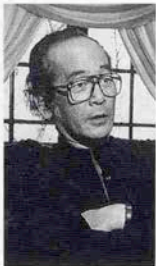
### 歴代受賞者

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 彫刻/山口 牧生  | 13. 平面/藤原 志保 |
| 2. 造形/丸本 耕   | 14. 建築/武田 明久 |
| 3. 洋画/小西 保文  | 15. 平面/石川 暗政 |
| 4. 版画/藤原 奎   | 16. 平面/松原 奎  |
| 5. 平面/斎藤 智   | 17. 造形/植松 薰  |
| 6. 洋画/鄭 相和   | 18. 彫刻/松山 子  |
| 7. 洋画/山本 文彦  | 19. 造形/杉本 昇  |
| 8. 造形/堀尾 貞治  | 20. 彫刻/田中 彦  |
| 9. 造形/榎 忠    | 21. 絵画/坪田 政文 |
| 10. 版画/松谷 武判 | 22. 絵画/木津 文み |
| 11. 平面/木下 佳通 | 23. 彫刻/牛尾 啓  |
| 12. 造形/宮崎 豊治 | 24. 絵画/中井 浩史 |





中西弘則さん  
〈神戸新聞文化部〉



出谷 啓さん  
〈音楽評論家〉



柴田 仁さん  
〈音楽評論家〉



小石忠男さん  
〈音楽評論家〉



●第二十五回  
ブルーメール賞  
《音楽部門》  
鋭く突き刺さる声の持ち主  
釜洞祐子に

一九八四年のハンブルク国立歌劇場の来日公演で、モーツァルトの「魔笛」で、夜の女王の衝撃のデビューを飾った釜洞祐子は、そのちよつと珍しい名前とともに、鮮烈な印象を我々の脳裏に刻んだのであった。日本人としては稀な、本格的なコロラトゥーラ・ソプラノで、しかも鋭く突き刺さ

さるような、スピントな声質を持っている。

以来ヨーロッパのそれもドイツを中心に、国際的な活躍を続ける彼女だが、毎年一度は帰国して二期会のオペラを始め、リサイタルやオーケストラとの共演で、故国での活動も忘れない。特に昨年の神戸でのリサイタルは、例の阪神・淡路大震災の前夜で、朝日ホールでのリサイタルの数時間後に、グラグラと来たのだから、ことさら思い出も深いものがあつただろう。

釜洞の歌唱はドイツのオペラハウスで、常時活動を続けているだけあつて、コロラトゥーラの正統派の技術を身に付けているほか、勿論ドイツ語の発音なども本格的なもので、その安定度の高さは並みのものではない。またドイツ・リートも手に入つたもので、しかも彼女の場合は、ただ淡いだけではなく、声の華やかさと輝きにもこと足らない。こうした国際級の歌手が、地元での活動も忘れないというのは、また何と見上げた姿勢だろう。

〈出谷 啓〉

■選考経過

昨年の活動が総ざらいされた結果、次の方々が候補に挙がつた。

全国的、国際的にも活躍している鈴木雅明、地域にねざしたユニークな活動が目玉されたブランニング・ディレクターの下田展久、ピアノでは坂本恵子、江頭義之、声楽では若本明志、瀬野光子、釜洞祐子、マリンバの国塚貴美、林せつを代表とするニュー・フィルハーモニー・ジュニア・オーケストラ。

釜洞はドイツで国際的にも活躍し、日本にも年1回は帰国してリサイタルを行っている。安定感のある活躍が高く評価され、全員一致で今回の受賞が決定した。

〈文中敬称略〉

■歴代受賞者

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 田原富子/ピアノ   | 13. 末広光夫/プロデューサー |
| 2. 矢野恵一郎/合唱指導 | 14. 安芸栄子/声楽      |
| 3. 上月倫子/バレエ   | 15. 延原武春/指揮      |
| 4. 今岡頌子/バレエ   | 16. 中西 覚/作曲      |
| 5. 小石忠男/音楽評論  | 17. 青井 彰/ピアノ     |
| 6. 中村茂隆/作曲    | 18. 広岡隆正/声楽      |
| 7. 関 晴子/ピアノ   | 19. 戎 洋子/ピアノ     |
| 8. 坂本 環/声楽    | 20. 大前 哲/作曲      |
| 9. 山内鈴子/ピアノ   | 21. 中野慶理/ピアノ     |
| 10. 松本幸三/声楽   | 22. 田中修二/ピアノ     |
| 11. 伊藤ルミ/ピアノ  | 23. 岡本一郎/リユート    |
| 12. 井上和世/声楽   | 24. 畑 儀文/声楽      |



佐野 漣箕さん  
〈元神戸新聞  
取締役文事局長〉



岡田 美代さん  
〈演道家〉



山本 忠勝さん  
〈神戸新聞文化部記者〉



## ●第二十五回 ブルーメール賞 「舞台芸術部門」 「吉田屋」夕霧で著しい進境をみせた 花柳小三郎に

「このところ よいことづくめ  
桜草」これは、三代目三木助さんが  
放送文化賞を受賞したときに、久保  
田万太郎さんがお祝いにと贈った俳  
句である。花柳小三郎さんも、この  
ところ、よいことづくめ（日本舞踊  
協会主催・各流合同新春舞踊大会大  
会賞受賞など）で、ぐつと腕をあげ  
られたように思う。

もともと「日高川」などの娘で花  
ある才能を見せていたが、今年は何  
よりも花柳流の特質である華麗さ

と、その中にある写実性、つまり内  
容がつまってきた風姿そのものに注  
視したい。「妹背山」の橘姫「吉田屋」  
の夕霧「戻橋」の鬼女などの作品に、  
その成長のあとが著しく証明されて  
いる。これで、肩に色気が出るよう  
になるとさらに一層良くなるだろう。  
今後の期待は大きい。

〈佐野漣箕〉

### ■選考経過

日舞では、「北州」の花柳芳一、「古  
松風」の大和松蒔、「連獅子」「将門」  
の若柳吉金吾の名前が候補に。共に  
実力を発揮、実績を伸ばしている。  
花柳呂月の「米寿を祝う会」と若柳  
吉童が喜寿を迎え、兵庫県ともしび  
賞、神戸市文化活動功労賞を受賞し  
た事も話題に。

洋舞では、貞松浜田バレエ団の確  
実な実績が、評価されていた。「くる  
み割人形」はもちろん、井勝・貞松  
正一郎・長尾良子・秋定信哉 四人  
の個性あふれる「創作リサイタル」の  
振り付けの競演は、新人の育成に大

いにプラスとなっている。藤田佳代  
の「山の月」は歩き通したモダンバレ  
エとして新しい間のアイデアを取り  
入れた意欲が目まぐるしかった。

能では、第一回照の会で上田拓司  
の「弱法師」、昨年度受賞者の善竹忠  
一郎が善竹狂言の会の「棒しばり」で  
実力を示し、善竹隆司・隆平兄弟も  
力をのばしてきている。小鼓の久田  
舜一郎は、一調に秘事が光っていた。  
今回は震災後にもかかわらず各方  
面とも、精力的な活躍・努力が見受  
けられ、高い評価を得ていたが、最  
終的には、「娘道成寺」、「妹背山」の  
橘姫「吉田屋」の夕霧「戻橋」の鬼  
女等で著しい成長の実績を証した花  
柳小三郎に決定した。

〈文中敬称略〉

### ■歴代受賞者

1. 邦舞/花柳芳恵一子
2. 邦舞/若柳吉由二
3. 能楽/吉井順一
4. 邦舞/花柳芳五三郎
5. 邦舞/花柳吉叟
6. 邦舞/藤間緑寿郎
7. 邦舞/尾上菊見
8. 能楽/藤井徳三
9. 仮名手庵歌舞伎/海野光子
10. 演劇/コメディ・ド・ブゲツ
11. モダンダンス/加藤きよ子
12. 舞踏/藤田佳代

13. 邦舞/花柳五三輔
14. 映画/白羽弥仁
15. 邦舞/松本尚蒔
16. 笑劇/スイト社/楠本喬章
17. フラメンコ/東伸一矩
18. 能楽/久田徹二
19. 邦楽/大和楽「蘭の会」
20. 貞松・浜田バレエ団
21. 邦舞/花柳芳圭次
22. 演劇/劇団四紀会
23. バレエ/貞松正一郎
24. 狂言/善竹忠一郎



小泉美喜子さん  
(本誌編集長)

鈴木章子さん  
(神戸ファッション専門学校校長)

藤本ハルミさん  
(デザイナー)



## ●第二十五回ブルーメール賞 (ファッション部門)

初の個展で創花(つくりばな)の世界を見せた

### 佐藤悦枝に

佐藤悦枝さんが個展を開くと決心した時、彼女の創花をよく見ていた私は、ただ単に生の花に似せた布の花というだけではなく、観る人に楽しい驚きや感動を興えてくれるような個展にしてほしいと話した。

今までミモザグループの主幹として、七回発表会を持った佐藤さんも個展は初めてで、自分の思うままの構想と製作が何とも自由で気分良く個展の面白さを味わったようだ。作品群の中心は染めたタオル地で

針金をまき、着物やブラウスの型にし、その中に花々が個性的に飾られるという壁面を飾るタペストリーのような作品で、今まで見たこともない新鮮さとゴージャスさに心地よい興奮をおぼえ、嬉しくなった。

階段の側面を飾った直径五ミリ位の小さな赤い実のどつきりついた楕円の群れ、デフォルメされた華麗な花々、どの作品も彼女の緻密な根気の良さど、大空に羽ばたく鳥のような自由な精神のきらめきを感じさせるものであった。

大勢の良いお友達が彼女をとりまき、協力と拍手を送っていた。個展を見にきた知らない人がまたお友達を誘って、そのお友達がまた、というように、青谷のわかりにくいところにあるが、つれりあ・馬皿さんの風格のある画廊は連日満員で、延べ五百人を集めたという。

佐藤悦枝さんの第一回の個展は大成功であった。心から拍手を送ります。  
(藤本ハルミ)

■選考経過

これからはファッション部門においても生活提案のできる幅広い魅力をもった分野が注目される、と最初に候補に挙がったのが神戸風月堂のファッションライブラリーの山本芳樹。文化、美術、教養にわたる質の高さと幅広さが評価された。続いて「ダンスの中のルネッサンス」を著し、着物のリファオームで新しい命を引き出すデザイナー藤井美智子のオリジナリティと高度な教育性が推挙されたが、今回は、個性的な初の個展を開き、震災後の神戸の街に夢を与えたアートフラワーデザイナーの佐藤悦枝に決定した。

〈文中敬称略〉

■歴代受賞者

- |                               |                              |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1. デザイナー/藤本ハルミ                | 9. コウベファッションモデリスト/K, F, M    |
| 2. 神戸市中心障害福祉センター/米田博司         | 10. 書道家/望月美佐                 |
| 3. ニットデザイナー/市野木悦子             | 11. コウベファッションクリエーターズ/K, F, C |
| 4. コウベジュニアテラーズクラブ/KLTC        | 12. ジャーナリスト/村上和子             |
| 5. アートフラワー/太田タマコ              | 13. デザイナー/中村一夫               |
| 6. コウベファッションソサエティ/K, F, S     | 14. 柴田グループ代表/柴田音吉            |
| 7. パール/「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム | 15. デザイナー/丹野巖世子              |
| 8. 家具/神戸市家具青年会                | 16. デザイナー/大西節子               |
|                               | 17. 旗の作家/福井恵子                |
|                               | 18. メガネ/服部メガネ店               |

# 醉眼流旅日記

## 第2回

# トリスバー初体験

村松 友視 〈作家〉

酒場へ初めて行ったのは、大学に行くようになってからのことだった。それ以前には、高校三年の時に一度だけ友だちと一緒に静岡の喫茶店兼レストランみたいな店に入り、ハイボールを飲んだことがあった。リカルド・サントスの演奏会へ行った帰りのことだったが、そのときハイボールをやけに旨いと感じ、俺は酒呑みの素質があるかなと思っただ。リカルド・サントスというのが泣かせるが、ハイボールを飲んで赤くなった顔で街を歩くのが恥かしく、下を向き急ぎ足で歩いていたのだから、まっこと、真珠のりのタンゴ的青春でありました。

そんなわけだから、静岡県清水から東京へやって来て、<sup>くはんぶ</sup>九品仏に下宿をしたときは、これでようやく堂々と酒を飲むことができるよと喜んで。堂々とやったって十八歳という未成年者だが、そこは大雑把に考えることにしたという、すでに酒を飲んだあげくのような切り抜け方をした。

私にとつて、清水から東京に出て行くのは、まさに旅という感じだった。私は東京生れなのだから、東京へ旅をするというのも変だったが、高校生から大学生へ、静岡から東京へというステップに、どこかひとつハードルを越えるような感覚があった。

大学の一年生ばかりが八人いた下宿は、オバサンが切盛りする<sup>まな</sup>賄付きの下宿だった。ある日曜日、皆で新宿のバーへ飲みに行こうという相談がもち上がり、オバサンが夕食分の軍資金をカンパしてくれた。新宿の歌舞伎町といっても、今日のような無国籍地帯ではなく、看板に「ストレート40円、ハイボール50円、白150円」などと記してある店なら安全だった。しかし、その店の雰囲気やパイカどうか、きれいな人がいるかどうかという品定めも必要で、そのための斥候みたいな役を私がやった。

階段を降りて行き（大体において、安いトリスバーやニッカバーやオーシャンバーなどは地下にあつた……地価が安い地下でええわけ）、ドアを半分明けて「いらっしやい」の音が終わるか終わらぬうちに判断をする。ヤバそうな店やつまらなそうな店の場合は即座にドアを閉め、まあまあのお店であるときは階段の上で待っている連中を手招く……もはやこの頃から、こういう胡散くさい役どころが身につけていたというわけだ。

まあまあのお店……ここには「きれいな女の人の人」などいるはずもなく、おそろしい女の人がいなければよしとしなければならぬ。たまにましな女性が一人

カット／灘本唯人  
題字／筆者



くらいいて、タバコの火でもつけてくれたりすれば、その店へ入った意味があったということになるが、そういう女性はめったにいない。

女性はおおむねマッチ遊びなどで客の相手をしてくれるのであり、色気カンケイはそれこそ関係ない。ここに三本のマッチを加えて別の駅名にしてみてもいい？ などといった他愛のないゲームを五十円のハイボールを三杯ほど飲み、柿の種かピーナッツをつまみにしながら楽しんで店を出るといのが大体のなりゆきだ。

たまに、隅の方にいたパーティーダーがのっそりと近づいて来て、ダイスの芸を見せてくれたりするものがあつたが、ウブな私たちは大いに感動してそのパーティーダーを尊敬してしまふのだつた。また、時どき獅子舞いが入つて来ることがあり、パーティーダーがこれを穏やかに帰しているのを見て、何となく凄味を感じたりしまつたりもした。クールなさばきを見せるパーティーダー……いま私の短篇小説に登場してくるしたたかな酒場男のベースには、あきらかにあの頃に見たパーティーダーたちのイメージがある。

そうやってトリスバーで飲むことを覚えてゆくうち、世の中にはモテる男とモテない男がいるんだなということ、私はおぼろげながら感じはじめた。だが、何によってそれが分れるのか……それはずつと謎だつたし、今だにつかめていないのであります。

〈むらまつ・ともみ〉一九四〇年東京生まれ。慶応義塾大学文学部卒。六三年中央公論社に入社。「小説中央公論」「婦人公論」「海」編集部員を経て、八一年退社。八二年「時代屋の女房」で直木賞受賞。主な著書は「私、プロレスの味方です」「百合子さんは何色」「アサン物語」「流水まで」など。





(あさい・のぶお) 1935年新潟県生まれ。東京大卒。読売新聞ワシントン支局長など海外勤務十年以上。米国ジョージタウン大客員研究員、三菱総合研究所客員研究員などを経て87年から現職。著書「アメリカ50州を読む地図」「民族世界地図」ほか。横浜市在住。

## ■浅井信雄対談シリーズ〈21〉

# 観光復興にサービス向上

(ゲスト)

井手 正敬 〈JR西日本社長〉

浅井 信雄 〈神戸市外国語大学教授〉

浅井 わたしの新聞記者生活は、キシャ見習いのトロック時代に、国鉄の取材から始まったのです。(笑い)。

井手 ほう、どちらですか。

浅井 静岡鉄道管理局が受け持ちでした。台風の大きな被害があつて、東海道線や飯田線の不通がよくありました。指令室で復旧作業を見ていたのですが、ダイヤグラムというのですか、表に線を引いて列車の運行を管理していました。当時、あの線引きはコンピュータではなく手書きでしたね。

井手 ええ、異常時の処理はいまでも手作業です。阪神大震災でも臨時ダイヤを組むのに手で線を引きました。浅井 事故とか災害をあらかじめコンピュータに組み込んでおくことはできませんからね。

井手 どこその区間はカーブがあるから何キロで走るなどのデータはコンピュータに組み込んであるのですが、今度のようになるとだめです。どこに待避線があるか、その長さはどれだけか、そんなことを全部考えながらダイヤを組むとなると人間の頭の方がはるかに早い。



浅井 予想もしない事態になると、それに対処するのは人間にしかできないものですね。あの日、井手さんはどんな行動を取られましたか。

井手 わたしは夏だと四時半、冬は五時半には起きます。あの朝、新聞を読み始めたとき家が揺れ、家具が倒れてきました。とつさに、新幹線はまだ動いていないと思いましたが、在来線はかなり動いている時間でしたから不安になりました。何かあると指令室から秘書を通して連絡が来るのですが、四、五分しても何も言っていない。あのとこの四、五分は一時間にも二時間にも感じるものです。こちらから秘書に電話すると、向こうの家もてんやわんやの様子で、状況が分かったのは六時一〇分ごろでした。列車はあちこちで脱線しているがお客様のケガとか死亡の報告はないとわかり、ほっとしました。

浅井 災害に対応するマニュアルに完璧ということはあり得ませんが、今度の経験から付け加えたことは何かありますか。

井手 いろいろあります。例えば、近くに住んでいる副社長、鉄道本部長と連絡が取れて住吉駅で一緒になり、

三人で同じ車に乗って本社に向かったのですが、倒壊した阪神高速の下を通らなければならぬ。余震もあり、何か落ちてくれば三人とも死にかねないという行動をとってしまいました。もつともそのうち副社長はガソリンスタンドで電話している間にはぐれてしまい、鉄道本部長は渋滞で車をあきらめ徒歩で向かいました。会社の経営を預かるトップが同じ車に乗って行動を共にするなどとは、危機管理上よくないかと考えました。

浅井 テレビ局の取材チームや出演者は、全員が同じ飛行機に乗ることを避けます。万一の事を考え、リスクを分散させるのです。

井手 結局わたしは午後三時半ごろようやく会社にたどり着いたのですが、それまでの時間、一人で考える時間があったことがよかったです。鉄道というのは、変な話なのですが、経験のうえになり立った技術なのです。言い換えると、事故の歴史なんです。そこで過去の事故のこと、例えば三河島事故のとき、鶴見事故のとき先輩たちはどうしたかを思い返してみました。わたしは鉄道に入ってから四十年近くになりますが、そうした事故のときのうまく

(いで・まさたか) 1935年福井県生まれ。東大経済学部卒。59年国鉄入社。再建実施推進本部事務局長、総裁室長、広報部長。87年国鉄の分割、民営化でJR西日本副社長。92年から現職。松田東日本社長、葛西東海社長とともに「国鉄改革派3人組」と言われた。神戸市在住。



浅井信雄さん

いったこと、失敗したなどが走馬灯のように浮かんできました。それが結果的にはよかったですね。

会社でも、みんなに「まず今日一晩落ち着いて考えよう」と話し、土木技術責任者は全員現場を見てくるようにと指示しました。わたしは、六甲道から住吉まで歩いて下から見ていましたので、壊れた高架の復旧には半年、一年はかかるのではないかと思っていたのですが、見て来た技術屋たちは「高架の橋脚はだめだが上の橋げたは使える」と言うのです。それが十八日の朝でした。そして、災害復旧対策本部をつくり、これまでの委譲していた権限を全部取り上げて、指揮、命令系統を集中させました。

**浅井** 最高責任者が権力を一身に集めた。文句を言わせないワンマン体制、強力な危機管理体制ですね。みんなの合意、というのは危機に通用しにくい。

**井手** ああいう非常事態になるとみんな思いもしないが、んばりを発揮するものです。方向を決めると、みんな最善の方法を考えて全力で動き出しました。すばらしい働きでした。

**浅井** 指導者の顔が見えたということもあるでしょう。全体像がつかめれば個々の持ち場も動きやすくなる。それに、鉄道は線です。面の被害より対応しやすい。

**井手** 岡山の林原さんという方が、直後に撮影した新幹線、在来線の航空写真を提供してくださり随分助かりました。JR東日本からコンクリートの専門家が来て、レールが乗っている橋台を診断し「大丈夫だ、使える」と

言ってくれました。それで十八日昼の記者会見で「復旧は二、三カ月でいける。工費は一千億円くらいになるだろう」といったら、ほぼそのとおりになりましたね。

競争心も大きな働きをしました。奥村組、大林組、飛鳥建設などのゼネコンさんと工事区間を区分して復旧に当たってもらったのですが、それぞれ隣に進み具合を見ながら猛烈な早さで達成してくれました。秀吉が黒侯城を五日間で築城したという話を思い出しました。

**浅井** 復旧の過程で以前の工事におかしところがあったのではないかと言われていましたね。

**井手** セメントの中に木片が入っていたと報道されたことがありました。しかしあれは施工不良と言われても仕方がないものではありませんが、設計した強度を減衰させるようなものではありませんでした。

★鉄道の死者がなかったのは幸いだった

**浅井** 結果的には強度に影響はなかったというものの、よくないことですね。地震が襲った時間がラッシュの時間帯だったらもっと大変だった、鉄道関連の死傷者が随分出たのではないかと議論があります。どう考えますか。

**井手** 確かに大変なことになる可能性はありました。しかし、あの時間は貨物列車がどンドン走っている時間帯なのです。普通電車も走っていました。ところが不思議なことに高架が落ちた住吉―灘間には電車や貨物列車は一本も走っていません。ツイていたとしか考えられない。ラッシュ時間帯でも、もしかしたらそんなツキがあったかもしれないと半分思っています。摂津本山と芦屋の間では二十二両もあるコンテナ列車が全軸脱線しました。全車両が脱線というのは鉄道の歴史で初めてのことです。ドーンと持ち上げられて列車が浮かんだ瞬間に線路が横にずれたのでしよう。もし高架線路上だったら転



落ちて下の民家を直撃していた。平地だったからよかったのです。これなどはツイていたとしか思えませんね。

#### ★被災者が疎開し切符売り上げが増える

**浅井** そうしたツキではないでしょうが、J R西日本の営業の方はこの一年も好調のようですね。

**井手** お客さんの輸送面であれば、わたしどもはまだ震災の後遺症の真っ只中にいると思います。悪い方でなくいい方ですが、神戸の定住人口は七％減り、芦屋は一五％、西宮は九％減っています。つまり、阪神間の人たちが姫路、加古川、三田や、湖西線、阪和線の沿線に移られたということなのです。そのあたりは私鉄が余りないところで、そちらの方のJ Rの乗客数が一割五分から二割伸びています。さらにこれまで新長田―三ノ宮間の通勤が姫路―三ノ宮間の通勤になった方も多く、単価が高くなったこともあり、全体として収入は増えていきます。震災の影響を今も受けているのです。二年か三年後、元のまちに帰って来られると、わたしどもの収入は落ち込むでしょう。**浅井** わたしは週一回は関東と新神戸を往復しているのでもいい客だと思のですが(笑い)注文があります。例えば、新神戸で乗って指定席を取ろうとすると「もうすぐ新大阪だからそこで聞いてくれ」と言われることがあります。新大阪までがJ R西日本でそこから東がJ R東海で、車掌の交替があるからなのでしょうか。

**井手** 交替の件はそうです。駅で買われた切符の売上は



井手正敬さん

距離に応じてJ R西日本とJ R東海に振り分けられます。しかし車内で車掌が販売した切符は、変更の場合三千元までは車掌が所属している会社の売上になります。ですから先生からお声がかかったときJ R西日本の車掌はぜひ売らなければならない。お聞きしてまだまだ増収の余地があると思えました(笑い)。昭和六十一年十一月に国鉄として最後のダイヤ改正をし、三十一万人いた要員を十八万人にする大合理化をして新しい会社にもつていこうとしたのです。そのときは、新幹線の車掌は新大阪駅で交替せず通して乗務しており、J Rになってからもしばらくは相互に乗り合っておりました。その後、お客様のことを考えて責任の所在をより明らかにするには新大阪で交替したほうが効率一辺倒よりよいかもしれないと東海から提言があり、今の姿にしたのです。ただ、北陸線の雷鳥系統の列車は、今でもJ R西日本とJ R東日本の車掌が交互に乗り入れて乗務しています。

**浅井** これはJ R西日本だけの問題かもしれません。わたしはよく新幹線の中でイアホンで音楽やニュースを聞きます。チャンネルが五つあり、東から西に向かうと、東海の区間ではNHKのラジオニュースが聞けるが、西日本の区間に入ったとたん聞けなくなりますね。

**井手** これは、例えば一〇〇系の二階建新幹線ではJ R西日本エリアではビデオがご覧いただけ、東海エリアではご覧いただけません。張り合っているところがあるので、西日本エリアでNHKが入らないのは沿線に張ってある同軸ケーブルの容量のこともあるのです。容量の大きいケーブルを張るように検討しているところで。**浅井** わたしは、いつどの辺りでどんな車内放送があるか、お土産の説明があるか分かってしまっているのですが、いろいろなわさび漬けの案内が始まると音楽やニュースが消えてしまう。何とかありませんか。

**井手** 音楽を聴いておられる方からの苦情が多くあります。これは近々何とかいたします。もともと車両によつ

てどうしてもできないものもあるのですが。

**浅井** ありがとうございます(笑)。次はタバコのごことで、JALは全面禁煙ですが、鉄道はそうはいかない事情があるのでしょうか。

**井手** それはありませんが、こんどのダイヤ改正で六割を禁煙にして四割を喫煙にしました。切符をお求めのとき、これまでは禁煙席ですかとおたずねしていましたが、これからは喫煙席ですかとお聞きするようになりました。何もおつしやらなかったら禁煙席をお売りすることになります(笑)。

**浅井** そうやってサービスも向上し、売上も上がってくる。次は株の上場ということになりますが、いつになりますか。

**井手** 証券取引所の基準を充たさないとけません。例えば上場する直前期の利益は資本金の四割以上必要ですが、平成七年度決算では十分達成できる予定です。平成六年に一回申請しているのですが、マーケットの状態が悪いとか、去年は震災直後なので待つてくれとか言われてきましたが、今年マーケットの状態もまずまずのようです。ですからすんなりいくと思います。

### ★旧国鉄債務の国民負担増を減らす策は

**浅井** それとは別に、旧国鉄時代からの債務が膨大なものになってきています。十年前に国会で認められた返済計画は、三十七兆円の債務のうちJR各社が十四兆五千億円を引き受け、九兆円弱を国鉄清算事業団が引き継ぎ、国民負担は十四兆円弱とされていた。ところがいま国民負担分は二十兆円にもなっている。JR各社の負担が増えてくるのでしょうか。

**井手** その前に、十年前、政府で枠組みを決め、事業団が引き継いだ旧国鉄の債務を、その枠組みの中で債務を引き受けながら必死になって再生に努力しているわたし

たちがなぜ改めて背負わなければならないのか、という疑問を持っています。JR西日本でもスタート時に二兆三千億円を引き受け、それを営々と返しつづあり、いま残高は一兆五千億円になりましたが、全額返すのに後何年かかりますか。しかも約十年間運賃値上げをしないでここまでやってきているのです。

一方で、政府はスタート時、責任を持って処理すべき債務の二十二兆七千億円については、悪いけれども何も処置されていない。JR東日本と東京の地下鉄の株を売ったお金が約二兆円あった。土地を売ったお金も四兆円以上あった。そのお金は借金の返済に当てられたはずで、しかし実際には処理の遅れから利払いに消えてしまい、当初の債務額を上回って、現在借金が二十八兆円になっている。本州三社が一兆二千億円を上積みして新幹線施設を買い取ったのですが、そのお金も借金返済に当てられず鉄道整備基金に回された。返済を第一と考えていけば、今日残された借金は十兆円くらいに減っている。ところが返済するために土地を売ろうとしても、地価の高騰を招くので売ってはいけなくなりました。それでも元金を返さなければならぬのでまたまた高利の借金をし、利子がかさんだ。国鉄の借金地獄と同じことをやってきて今日の状況が生まれて来ているなかで、何でわれわれがさらに借金を背負わないといけないのか。民営化以来塗炭の苦しみを味わって来た社員からすればがまんできないことです。

**浅井** 社長の立場からすれば筋の通った話だと思えます。同時に、十年前の枠組みで国民負担は決められているのですが、このところ住専の問題もあり、国民は税金の使われ方に敏感になってきています。そのところにまた新しい壁ができたように思えます。

**井手** わたしたちの計算でいいますと、土地と株を売って六兆円、新幹線の一兆円、そしてJR東海と西日本の株で二兆円、これだけで九兆円できました。汐留や梅田の土



井手正敏さんと浅井信雄さん

地を売ると四、五兆円できる。合計十四兆円。当初の借金二十二兆円から十四兆円引くと八兆円。この八兆円が今日時点で問題にされる国民の負担になるというのが本当だと思います。それについても、国鉄は最後のころは年間六千億円を一般会計からもらっていたが、民営になってからはなくなりました。逆にJR全体で約二千二百億円の法人税を納めています。それを考えるとJRは国鉄と比べると政府に八千二、三百億円の貢献をしているのです。国民の負担額は減り、利用者からいただくなくてもいいようになっていたと思えます。それが消えないで二十八兆円に膨れ上がったことはどうしてもがまんできないことです。国民の負担額をどうするかという大問題は、これまで問題を先送りし続けた政府に責任があると言わざるを得ません。

#### ★ゆとりある旅を楽しむ列車を

浅井 長期的な話を伺いたのですが、戦後日本の鉄道は、早く、効率的に、をめざしていました。人口の少ない地域にも路線を敷くサービスもしてきました。戦後五十年を経ると、鉄道旅行を楽しむというか、もう少し夢があってもいいのではないかと感じます。わたしはアメリカ生活が長かったのですが、アメリカンロッキーやカナ

ディアンロッキーの風景の中をゆっくり走る列車があります。もうかつてはいないようですが、世界中から旅行者が乗りに来ています。日本国内でもいろいろ工夫されているようです。

井手 鉄道の役割は三つの分野があると思います。一つは新幹線のような国土軸

を結ぶ輸送機関としてです。飛行機との競争はありますが、高速、大量、安全という面でこれからも競争は続くと思います。二つ目は、都市圏輸送です。都市の中での大量輸送機関としてもっと充実させていかななくてはならない。来春には片福津線が開業しますが、都市型鉄道としての利便性、快適性をさらに追求したいですね。もう一つは都市間輸送です。例えば大阪と福井、金沢をつなぐ列車ですが、これもある程度スピードがないと高速バスに負ける。しかしこのほかに、いま先生がおっしゃった旅という面も大切です。大阪から二十一時間かけて札幌に行くトワイライトエクスプレスは常時満員です。これからの高齢化社会で、時間にゆとりをもった人たちが増えてくる。スピードだけでなく、旅を鉄道で楽しんでいたということにもっと力を入れる必要性を痛感しています。そのためふざわしい車両などを作ってサービスを向上させたいと思っています。

浅井 豪華客船で一人一千万円という旅行プランがすぐ売り切れになるといいますからね。

井手 日本旅行さんが企画した三百九十万円の世界一周旅行が二時間で売り切れたと聞きました。それでもまだ六十人がキャンセルを待っているということです。

浅井 アメリカでは飛行機より列車の旅がぜいたくだと言われています。日本でも、料金は安くて、気持ちはずいいたくを味わえる列車の旅ができる日を待っています。昨年末の神戸でのルミナリエ、今年も計画されていますか。井手 あれは神戸の観光客が三二%にまで落ち込んでいる、何とかしなければ、と考え出したのです。二百五十万人に来てもらって大成功だとほめていただいているので、今年もやろうと思っています。

浅井 鎮魂の意味合いもありましたね。これからも神戸の観光に力を入れていただき、神戸も復興する、JRももうかることを願っています。

三月二十五日、JR西日本本社で

## ◆メッセージ／神戸復興への一提案◆

## 市民一人ひとりが神戸に

## 観光客を呼ぼう

大河原

徳三

（財）神戸国際観光協会専務理事



今年の神戸まつりはハーバーランドを中心に開催される（写真は平成4年の神戸まつりサンパフェスティバル風景）



阪神・淡路大震災から一年と四か月余りが経過しましたがこの間、観光関連では市内観光施設の八割以上、宿泊施設の約九割が営業を再開し、観光客の受け入れ態勢もほぼ整っていると云えます。

神戸全体の復興のためには観光客に来てもらうことが大きな力となるのですが、肝心の観光入込客数はといますと、震災前の六割程度にしか回復しておりません。

当協会でも、様々な観光客誘致活動を積極的に行ってまいりましたが、まだまだ十分な効果が上がっているとは言えません。

そこでこの際、一人でも多くの人に神戸に来てもらうために、市民一人ひとりが全国の知人に呼びかけて、「是非とも神戸へ来て下さい。神戸で泊まって、観光地をみて、買物、食事をして下さい。それが一番の神戸復興支援ですよ。」ということをごんごんアピールしようではありませんか。

七月には神戸まつりが開催され、パレード、花火大会、そしてサンパフェスティバルなどの行事が予定されています。神戸まつりは市民が参加して楽しむとともに、市民と来訪者との交流をうたっています。神戸まつりが成功するためにも、神戸への来訪を呼びかけましょう。



海につながる文化都心として充実して行くハーバーランド

◆メッセージ／神戸復興への一提案◆

世界に誇る文化都心を創造  
にぎわうハーバーランド

大前 栄仁  
神戸ハーバーランド情報センター支配人



整備着工から十一年、まちびらき記念式典から四年を迎えたハーバーランドは、大震災の中からいち早く立ち上がり、神戸のにぎわいを取り戻す力の一翼を担うことができました。都市機能の更新をめざして旧国鉄湊川貨物駅を中心とした二十三haの区域に計画された都市拠点整備事業は、いま国内だけでなく世界から注目されています。

元町の伝統、トアロードの国際性、三宮の新しい神戸のそれぞれの長所を取り入れてハーバーランドの魅力が作り出されました。神戸がもっている優れた要素を巧みに取り入れ一体化した新しい多機能都市です。

住宅、文化、情報、商業、レジャーなどさまざまな施設が海辺に集まったこのまちは「こった煮」の魅力を発散しているとも言われます。人に優しく、人肌の温かさがあるふれあいのまちなのです。横浜の「みなとみらい21」、福岡の「キャナルシティ博多」などはハーバーランドを参考にして建設されていると聞きます。

私たちは、三年後に予定される地下鉄海岸線の開通を控え、西元町から神戸駅前周辺、新開地までを含んだ地域と一体になった「海につながる文化都心」の創造に力を尽くしたいと考えています。常にハーバーランドの在り方を見直し、住みよく、働きやすく、楽しく、幅広い多くの人たちに愛される二十一世紀のまちをめざしていきます。

□ (株)神戸ハーバーランド情報センター 神戸市中央区東川崎町1-3-3



## ■新産業創造プログラム＆新産業創造キャピタル 新産業の息吹を求めて

# ベンチャー企業支援施策の 両輪が始動

お話を伺った人 原田彰さん（兵庫県商工部産業政策課長）

アジア・太平洋時代が予測されるなか、兵庫県は関西国際空港をはじめ、明石海峡大橋の建設や神戸港の再生など陸海空の交通の結節点となりつつあります。

こうした地域特性をいかして、各企業のさまざまな創意による自律した企業活動が展開され、それらが全体として調和していくという「熱帯雨林型」の産業構造をめざす政策を展開していかなければなりません。新産業創出への支援もまたその一つといえます。

「兵庫県は生活者の視点で見た新しいマーケットを開拓してもらおうと、平成六年度から『新産業創造プログラム』制度を実施していますが、ずいぶん反響があります。今年度は、これに加えて、全国で初めて女性起業家や青年起業家を支援する『新産業創造キャピタル』という施策を開始しました」そう語る原田彰商工部産業政策課長に二つの支援策を説明してもらいました。

三年前に始められた「創造プログラム」は「生活の質の向上につながる新しい製品・サービスの開拓に重点を置き、研究開発や技術開発、企業化を支援しています。新産業創造委員会の審査を経て県による認定を受ければ、一〇〇万円から五〇〇万円までの補助が受けられるほか、企業化、商品化のための設備・運転資金として七〇〇〇万円までの低利融資もあります」という。

この「創造プログラム」には、これまでに二百六十一件

の計画が寄せられ、五十六件が認定を受け、事業化へ向かっているようです。織物工場で出る色のついた綿ぼこりを張り絵の材料に利用する芸術用品の製作、もち麦を使ったカステラの製作、廃棄される魚の内蔵などから栄養素を取り出し魚醬としてリサイクルする試みなど、女性の感性や環境重視の目が光っているプログラムが目につきます。募集は年一回で、今年の募集期間は五月三十一日までとなっています。

今年度スタートした「創造キャピタル」は、優れた技術力やアイデアで新たな事業を展開しようとする企業や今後活躍が期待される女性起業家などに、株式投資等を中心とした資金供給で創業や新事業展開などを支援する施策で、(財)阪神・淡路大震災復興基金も活用して、年間十五億円が用意されていますが、原田課長は「今年度は復興元年でもあり、数多くの起業家たちが、兵庫の地で新しいビジネスに取り組まれることを期待しています。元気なひょうご創造に元気な起業家の申し込みをお待ちしています」と積極的な利用を呼びかけています。

■問い合わせ先

新産業創造プログラム／兵庫県商工部産業政策課

神戸市中央区下山手通5・10・1

TEL078・341・7711

新産業創造キャピタル／(財)兵庫県中小企業振興公社

神戸市中央区中町通2・1・18 日本生命神戸駅前ビル11階

TEL078・360・5310

数百年雨林を産業って  
なんですか？！

動物が必ずり合いたまはあつて  
ようにみんながチエを出し合つて  
今身体が調和して、くんと  
たのよ

ゾウは  
実を食べたら  
フンで種を  
運ぶ仕事を  
しています

キリンは高い  
ところで食べて  
下の草は  
シカ達に残して、

キリンは危険な  
目で見つめて  
みんなに  
知らせます

ライオン  
だよ！

おちゃん  
お返しを  
する仕事  
なんです

ありが  
とうか

キリンさん  
見張りの仕事  
ありがとうございます

鳥も食んだら  
草木に肥料を  
やる仕事を  
しています

お母ちゃんもお父ちゃんも  
チエを出して  
新しい仕事を  
生み出しましょう

ワニさん  
ご馳走  
ありがとうございます

ゴキブリさん  
掃除してくれ  
てありがとうございます

